先行研究まとめ

安倉良二，2007，「愛媛県今治市における中心商店街の衰退と仲間型組織による再生への取り組み――「今治商店街おかみさん会」の活動を中心に」『経済地理学年報』53(2): 173-197．

・本研究のテーマは、地方中小都市における中心商店街の再生である。愛媛県今治市の仲間型組織である「今治商店街おかみさん会」を事例として、その設立背景となった商業環境の変化と活動実態の分析から考察を行なっている。

（中略）

・今治市の事例から、商業活動の衰退が進む地方中小都市の中心商店街では、規模の縮小を前提としつつ、既存の枠にとらわれない仲間型組織が再生の一翼を担う可能性をもつことが明らかになったという。

※みやのかわ商店街も「地方中小都市における中心商店街」に当てはまると考えられる。

※みやのかわ商店街にも「既存の枠にとらわれない仲間型組織」は存在するだろうか。

（以下省略）

島村守，2017，「地域商店街復活のための方策に関する一研究――みやのかわ商店街振興組合の商店街活動から」『商学研究論集』46: 137-158．

Ⅰ. はじめに

・本稿は、高齢社会に対応した共同事業を展開している、みやのかわ商店街振興組合に焦点を当てて、その成功要因を分析するため実地調査により事例研究を行なう。

・「本組合のその商店街活動の中でも「ボランティアバンクおたすけ隊」は，後述のとおり高齢者を支え合う地域包括ケアの福祉対策にも寄与する全国的にも珍しい商店街活動である」（p.139）

Ⅱ. 高齢社会の現状と将来予想

（以下省略）

※秩父市の概要やみやのかわ商店街振興組合の取り組みが詳細にまとめられており、参考になる。

※この論文によれば、「本組合の商店街は空き店舗が0（ゼロ）である」（p.155）という。本研究の基礎となるインタビュー調査は、2016年に実施されている。それから8年以上が経過しており、この間にコロナ禍もあったが、現在も空き店舗はゼロのままだろうか。

（以下省略）